



第35回定期委員会を開催！！

二〇二四年二月三日に東京地本会議室において定期委員会を開催し、一年間の方針が決定される！

定期委員会は、構成員・委員23名中13名の出席、委任状5通での委員会成立のもと高崎地協の萩原委員を議長に選出をし、出羽議長・東日本本部武田書記長より挨拶をいただき、清水事務長から経過方針・決算・予算の提起を受けて討論に入りました。



【武田書記長あいさつ】

1月23日に発生した、東北新幹線の輸送障害および感電事故に伴う緊急申入れ。24春闘につ

いて。賃金アンケートの取り組み。東北地本・首都圏地本の再編について等の挨拶を受けました。

委員発言

出向先は要員補充がなく、業務負担増、休む日がない。認定線区は金も手もかけず、荒廃している現状。仙山線でBHが横転し、引き上げに1ヶ月かかった。JRの直轄作業が増えている。国鉄時代に戻りつつあり、メンテナンス体制の崩壊を危惧する。JRの退職祝賀会で、女性社員とつながりを持った。(仙台)

昨年、交流会に参加した若手は、千葉地協の若手や長野地協の方と人活センターの話など、交流ができ連帯を感じたと報告していた。盛岡地協は、2年間は現状で存続して行くことを常任会で確認した。地本の交渉員となった若手を支えて行く。(盛岡) 警備会社で倒れたエルダー組

合員は、人事課勤務となり病欠・自宅待機を経て列車清掃の出向先に復帰した。働き続ける強い意志を持っていた。昨年12月、JRで巡視中に待避遅延が発生。現場に行く機会が無く、ついでに見てしまおうとして起きた。会社は、辞めるのは個人の問題とし、こうしないと勤めてもらえない事を示していない。(千葉)

1月28、29日、定期委員会を開催。入社若手は労組への関心はない。早く管理者になれと言われる。職場に指導者がいない。毎日100件以上の線閉処理に追われ、65歳まで出来なかった。JR職場は全体的に暗い。P社もベテランが辞めている。若手にどう引き継ぐのか、職協のあり方を進めるべき。(東京)

1月20日、新分会としてレクと旗開きを開催。ボーリングを行い、参加者は11名で未加入者1名が参加し交流を深めた。現在、出向者交流会に向けて、アンケートを取り組んでいる。出向先の労働条件・労働環境改善に向けて、事前の職場状況を把握し交流会



での議題にして行く。(水戸)

軌陸車の事故が続いている。競合打合せを行ったが、見誤りで起きている。安全が保たれているのか危惧する。

賃金アンケートは、職場で11名回答し若手はすぐにやってくる。国労要求を広めて行きたい。地区本部のドッジボールレクに若手2名が参加した。(横浜) 昨年12月18日、職場要求8項目で団交を行った。会社は、本社に伝えると回答し平行線であった。団交権を持っているので、粘り強く交渉していく。一級建築士を取り5、6年で退職・転職し

て行く。若手は、お金が高くない、仕事がつまらないからやめる傾向がある。事故事象が増えている。川崎事故から今年で10年、基本的なことが疎かになっている。(建設)以上、9名の委員より発言がありました。

「出羽議長集約」

出向先の労働実態やJRの技術継承から見えてくる安全問題が報告されました。現場実態から会社に問題提起して行く運動を要請します。

私たちの構えと行動、実践することが組織拡大に繋がります。工務協運動を若手に継承して行く任務があります。組織の在り方は、2、3年が勝負の時期であり早急に提起していきます。

